

議事録

【会議の名称】

宝塚市パークマネジメント計画等審議会

【会議の開催状況】

日時：令和8年2月26日（木）10時00分～12時00分

場所：市役所会議室

【出席者】

（委員）

赤澤宏樹：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 環境計画部門 教授

上町あずさ：武庫川女子大学 建築学部 景観建築学科 教授

梶木典子：神戸女子大学 家政学部 家政学科 教授（オンライン参加）

竹田和真：大阪産業大学 建築・環境デザイン学部 建築・環境デザイン学科 准教授
（オンライン参加）

清水厚真：櫻守の会 代表

松田洋三郎：公募による市民

安東明美：兵庫県阪神北県民局県民躍動室 室長

（事務局）

中村次長、雑賀課長、田中係長、阪上、児玉係長、藪内

【欠席者（委員）】

金岡栄興：宝塚市花き園芸協会 会長

※令和8年2月5日付で阪上和彦氏から金岡栄興氏に代表を変更されたため、当審議会の委員についても同様に変更された。

【傍聴】

1名

【次第】

1 開会

2 議題

（1）第9回審議会における到達目標

①第9回審議会における到達目標 （資料1、2）

（2）報告事項について

② 公園区計画作成に向けた取組状況 （資料1、3）

（3）審議事項

③ パークマネジメント計画(案)の修正 （資料1、4、5-1、5-2）

④ 街路樹管理計画(案)の修正 （資料1、6、7-1、7-2）

(4) 関連事項について

- ⑤ シビックゾーンにおける民間活力導入の今後の進め方 (資料1)
- ⑥ 都市計画見直しガイドライン(案)の検討状況 (資料1)
- ⑦ 公園及び街路樹の包括管理業務委託の検討 (資料1)
- ⑧ 桜の園のあり方について (資料1、8)

3 閉会

【配布資料】

- 資料1 概要資料
 - 資料2 審議会・作業部会における審議経過
 - 資料3 先行着手地区における意向把握WEBアンケート結果
 - 資料4 パークマネジメント計画(案)に関するパブリック・コメントにおける提出意見一覧
 - 資料5-1 パークマネジメント計画(案) 本編修正案稿
 - 資料5-2 パークマネジメント計画(案) 概要版修正稿
 - 資料6 街路樹管理計画(案)に関するパブリック・コメントにおける提出意見一覧
 - 資料7-1 街路樹管理計画(案) 本編修正稿
 - 資料7-2 街路樹管理計画(案) 概要版修正稿
 - 資料8 桜の園のあり方(案)
- 全体説明用資料

【議事録】

1 開会

- 資料の確認

2 議事内容

《議題1. 第8回審議会における到達目標》

全委員：(異議なし)

《議題2. 報告事項について》

① 公園区計画作成に向けた地域の取組状況

委員：進行管理の主体は誰になるのか。

事務局：計画の推進は、地域や行政が取り組むが、進行管理自体は、市が主体となる。

委員：進行管理は、計画を实践する地域、団体等が取り組むべきものではないか。懸念しているのは、計画を作成しても、实践する地域等の主体が積極的に取り組まないと、進行管理も困難になるということである。

会長：ご指摘の通り、地域の主体性が重要と思う。行政が積極的に支援しないと難しい。

ただし、ワークショップの現場では、まちづくり協議会の会長が熱心に説明などされていて、取組が軌道に乗れば、地域の協力も得られるのではないかという印象を受けた。

委員：対象地区は、まちづくり協議会がしっかりと運営・活動されている地域であるのか。一般に、まちづくり協議会が停滞・衰退している地域も多い。その点はいかがであるか。

事務局：先行着手地区では、まちづくり協議会において地域の合意をとり、それを踏まえ、立候補いただいた。その点では、先行着手地区では、まちづくり協議会がしっかりと機能していると受け止めている。

委員：まちづくり協議会も重要であるが、地縁による団体に限らず、子育てや健康といった特定テーマを目的に活動する団体は含まれているか。地域協働の取組では、地縁団体依存では限界があり、今後はテーマ団体の協力が重要であり、期待されている。

事務局：現時点では、まちづくり協議会や自治会等の地縁団体が中心になっている。

会長：ご指摘の通り、テーマ団体の協力は重要になる。中山台地区の取組は、パナソニックホームズ株式会社（以下、「パナソニック」とする。）の関与があるようだが、この場合もまちづくり協議会が中心となるのか。海外でも同様な取組例があるが、実態はまちまちである。

事務局：企画政策課が窓口となり、パナソニックと連携している。主体はパナソニックが担い、プラットフォーム等の組成を進める予定である。地区内には本市の公共施設もあり、本市もプラットフォームに参画していくことが見込まれる。公園区計画についても、プラットフォームにおいて検討していく方針であるが、現時点では不明な点もある。

会長：まちづくりという観点では、公園はその中の一つの要素に過ぎないので、十分な検討ができるか定かではない。ただし、公園区計画はまちづくりに貢献することが重要な目的であるので、中山台地区においても企業と連携しながら、推進できると望ましい。

委員：計画検討において、多段階のアンケート、ワークショップ等を通じ、市民意見を収集・確認する手続きが行われている。市として、計画に自信をもって取り組むべきものとする。

《議題 3. 関連事項について》

② パークマネジメント計画（案）の修正について

全委員：（異議なし）

委員：計画推進を進める際、意見をいただいた市民に対し、今後も継続的な関与を求める意向はあるのか。今の時代、公園に強い関心を持つ市民が少なくなっていて、こうした意見を積極的に出される市民は貴重な存在であり、継続的な関与を求めることが重要と考える。

事務局：ご指摘の通りである。ワークショップの開催においても、公園に関心を持っている市民に参加いただくのに苦労している。ポスティングも含め、多様な手段による広報を実施したが、参加者は多いとは言えない。パブリック・コメントで意見をいただいた方々には、今後も関係を継続できれば望ましいと考える。

会長：資料4には、厳しい意見もあるが、公園をよりよくしたいという前向きな意欲がうかがえる。こうした関係性をパブリック・コメントだけ終わらず、継続的に参画を求めることが重要である。

委員：市民意見の中に、外来生物等の意見をいただいている。こうしたアイデアを今後も実現できると望ましいが、関連する活動に参加いただくといったことは考えられるか。

事務局：今後の検討することになるが、公園での具体的な活動に限らず、さまざまな機会をとらえて、計画の実践に協力を求めることは可能ではないかと考える。

委員：パブリック・コメントの1つめに公園の将来像に関する意見がある。地縁団体の停滞等の状況を踏まえると、地域のまちづくり・公園づくりを検討する仕組みを作っていく過程自体も重要なものになっていくという認識を新たにしたい。

委員：資料4にある意見は、多くの市民が持っている当然の意見と思う。公園区計画の作成を市役所が打ち出して以降、まちづくり協議会など地域の人々の中で、公園に対する考えが変わってきているのではないかと。そうした人々の実感をもっと広く共有していくと、計画づくりへの賛同者も増えていくのではないかと。

事務局：ご指摘のとおりである。先行着手地区の人々の感想を、ほかの地域の方々に伝えていただける機会を設けるようにしたい。本年度は、初年度であり、取組を軌道に乗せるのに時間がかかっている。今後は地域の方々と公園区計画の作成に取り組む機運を、しっかり醸成していくことを目指したい。

委員：資料4の市民意見 NO.1、2の2列目の市民等からの意見の採否及び理由に「今後の市民協働による公園づくりを実践していく中で」、「今後の市民協働での公園管理の参考とさせていただきます。」という姿勢が、NO.4の「無償ボランティアによる公園整備活動を押し付ける」というような印象につながっているのではないかと。公園づくりを通じて、またはそれをきっかけとして、市民協働や地域共生社会の仕組みをつくるというような意識で、今後、公園区計画づくりに参加していただく方とコミュニケーションを取っていけば、そうした印象は和らげられるのではないかと。

会長：「市民協働」という文言のみでは、市民だけが行うイメージを持たれやすい。市、民間事業者など、多様な主体と一緒にやっていくといった表現を入れることも重要である。

事務局：資料4の記載内容については、表現等の工夫を検討する。

委員：関東ではプレーパークの取り組みは活発であるが、関西では限られていて、その代わりに、大きな遊具の設置等を要望する意見が強いという印象がある。関西では、プレーパーク自体を知らない人が多いと感じているが、今回のワーク

ショップで、プレーパークについて例示などされているだろうか。

事務局：ワークショップでは、プレーパークについて例示等行っていない。ワークショップにおける説明内容については検討したい。

会長：協働に関する箇所については、一部修正が出る可能性もあるが、全体としては修正案でよろしいか。(全委員異議なし)

③ 街路樹管理計画（案）の修正について

会長：ハナミズキ、サルスベリは倒伏しやすいという指摘であるが、実際はいかがか。

事務局：ハナミズキは、花が美しく、巨木に成長しにくいいため、これまで多数植栽されてきたが、その後の時間経過において、根の張りが浅く、倒伏しやすい点があるといったことが明らかになってきた。巨木に育ちにくい樹種であるが、倒伏時に全く被害がでないというわけではない。植え替え等を行う際は、地域の方と意見交換しながら検討したい。

委員：パブリック・コメントでは、一部ネガティブな意見もあるが、全体としては、計画推進を求める意見が多いのではないか。できることをやっていくことが意見への対応と考える。

会長：細部では、他市事例を紹介する意見もあるなど、強い関心を持っている市民もいる。植栽基盤に関する意見については、道路管理課とも考えを共有し、適切に管理されることが望ましい。

審議会は今回が最終であり、計画内容について修正が生じた場合の確認は、会長に一任するというところでよろしいか。(全委員異議なし)

委員：ハナミズキ、サルスベリの倒木リスクがあるのは理解するが、単一の根拠をもとに、方針を明記するのは誤解を招く恐れがある。赤字で強調表現している箇所については、表現を見直してはいかがか。

事務局：ご指摘のとおりである。当該箇所の表現については検討したい。

④ シビックゾーンにおける民間活力導入の今後の進め方

会長：河川敷、公園、市役所のオープンスペースとの一体的な運用はぜひ進めてもらいたい。そのほか、意見・質問はあるか。(全委員なし)

⑤ 都市計画見直しガイドライン（案）の検討状況

会長：この件について、意見・質問はあるか。(全委員なし)

⑥ 公園及び街路樹の包括管理業務委託の検討

会長：神戸市の取組では、都市計画上の観点など市の専権事項に関する役割は行政が担うなど、適切な運用が行われている。宝塚市独自のやり方を構築してほしい。そのほか、意見・質問はあるか。(全委員なし)

⑦ 桜の園の今後のあり方について

委員：解説板等の整備を行う方針であるとのことだが、インバウンド向けの多言語表記の予定はあるのか。

委員：これまでのところ、多言語表記について検討を行っていない。

会長：看板で必要な情報全てを掲載することは困難であるので、いろいろな手段を検討してほしい。

委員：Google マップの施設情報では、英語版があると外国人観光客の利用促進につながる。

会長：英語版にしていると検索に引っかからない。

委員：植物は在来種が多く、貴重な自然環境である。一方で、利用者は廃線跡から桜の園の奥まで散策される方は少ない。広く散策されるよう、解説板、園路等の施設整備が重要と考える。サクラ類の新植であるが、笹部氏はソメイヨシノを好んでいなかった。そのため、櫻守の会では、ソメイヨシノの新植はなるべく避けるようにしている。

委員：トイレの整備も検討されているのか。

事務局：排水等の条件面を考慮し、トイレの整備について明確な記載はしていないが、検討予定である。

委員：トイレは利用促進上、整備されていることが望ましい。

事務局：トイレ整備の重要性は認識しているところであり、トイレ整備に関する検討は、今後も継続していく。

委員：里山整備において、近年は自生種、在来種を優先する考えが広がっている。桜の園の森づくりにおいても、整備方針を明確に示すことが重要ではないか。

委員：指摘のとおりと考える。桜坂にある巨木を母樹に育苗し、枯死によるギャップを埋めようとしている。既存樹木も老木化しているため、世代交代をしていく必要がある。桜の園として相応しい環境を維持していきたい。

(以上)